比較政治 2　*Comparative Politics 2*　　2 単位

大学名	神戸市外国語大学	担当教員氏名	木場　紗綾　准教授
開講期間	後期（9/19 ～ 2/9）	開講曜日・時間	木曜 3 限（12:45 ～ 14:15）
履修条件		募集人員	若干名
教室	未定	連絡先	Tel: 078-794-8133 Email: kyomu@office.kobe-cufs.ac.jp （教務入試班）
授業形態	対面		
授業方法	講義		
学習目標			
授業概要	比較政治学(Comparative Politics)は、世界各国の国内政治を分析対象とし、「なぜ」という疑問をもとに、原因を推論する学問である。後期のテーマは「モデルを失う民主主義」である。20 世紀以降の民主主義をめぐる議論（ソーシャル・キャピタル論、選挙や政党などの制度に着目する議論、そして、市民社会や社会運動の構造分析、近年の排外主義の台頭）を議論する。前期「比較政治 1」では、開発途上国が民主化を達成できない理由を考察した。しかし、西側民主主義諸国の民主主義もまた、揺らいでいる。民主主義は社会の分断にどう対応できるのだろうか。本科目は、先進国 - 途上国の差異、あるいは、民主主義国 - 権威主義国の差異を超えた比較の視野を提供する。		
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	レポートには早めに着手し、まず、問いを定めること。文献や資料に、精力的に目を通すこと。 アカデミック・ライティングのマナーを身に着けることは前提とする。		

授業計画	
1	イントロダクション：比較政治とは何か
2	寄付をとボランティアをめぐる研究
3	国防意識の国際比較と徴兵制度
4	ソーシャル・キャピタル
5	社会運動①
6	社会運動②
7	国家と NGO①
8	国家と NGO②
9	ローカル・ガバナンスと NGO
10	政治参加の度合いと政治的有効性感覚
11	排外主義①
12	排外主義②
13	レポート執筆に向けて①
14	レポート執筆に向けて②
15	総括

評価方法

期末レポートで 100%評価する。出欠は確認しないが、期末レポートは「比較政治」の考え方を理解しているかを確認するものであるから、授業を聴いて理解していない学生には上記レポートの執筆は困難であると思われる。レポート論題や字数、締め切り、評価基準などは、第 1 回の授業時に提示するが、おおむね次のようなものを想定している。

――――――――――

①以下から 1 つ以上の概念を選び、②先行研究を引用しつつその概念を定義し、③操作化された客観的な測定指標を 1 つ以上提示し、④そのテーマについて一見不可思議な「パズル」である「なぜ」または「どの条件が」(why または what makes…)」で始まる問いを立て、⑤その「問い」に答えようと試みている先行研究（アカデミックな書籍や論文、信頼に足る専門家の論考、シンクタンクの論説記事、大手新聞社の論稿など）を 2 点以上引用して論述せよ。なお、2 つ以上の国や地域を選択する必要はなく、1 つの国や地域について論じて構わない。本科目の重点は「比較する」ことではなく「原因を推論する」ことにある。【概念の選択肢：寄付、ボランティア活動、ソーシャル・キャピタル、政治参加（ただし、投票率以外）、政党、利益団体、NGO, 社会運動、国家-NGO 関係、社会的企業、排外主義、徴兵】図表や参考文献リスト、脚注を含まず 3,000-5,000 字程度。執筆者自身の主張は不要。アカデミック・ライティングのルールを踏まえ、先行研究を丁寧に引用すること。レポートを提出したからといって単位が取得できるわけではない。なお、12 月から 1 月にかけて、期末レポートに関する相談会を何度か、対面およびオンラインで実施する（参加自由）。

教　　科　　書	教科書は指定しない。必読資料および入手方法は、随時、授業で指示する。
参　考　図　書	善教将大ほか(2025)『政治意識研究の最前線』法律文化社 粕谷祐子(2014)『比較政治学』ミネルヴァ書房 松林哲也（2023)『何が投票率を高めるのか』有斐閣 坂本治也編著（2023)『日本の寄付を科学する：利他のアカデミア入門』明石書店 坂本治也編（2017)『市民社会論』法律文化社 （特に「第 3 章 社会運動論」「第 6 章 ソーシャル・キャピタル論」「第 7 章 ボランティアと寄付」「第 16 章 排外主義の台頭」後房雄・坂本治也編（2019)『現代日本の市民社会』法律文化社 より特に「第 4 章 サードセクター組織の政治・行政との関係性」「第 12 章 社会運動を受容する政治文化」「第 13 章 市民社会への参加の衰退？」)
特　記　事　項	講義では、日本の政治・社会にも言及するし、途上国に対する国際協力、開発援助、人道支援、安全保障といった国際政治のテーマにも言及する。とりわけ、国際協力論（援助論）や NGO, ボランティアに関する先行研究や実践について多く言及するので、そうしたテーマに関心を持つ学生の参加を歓迎する。政治学に関する基礎知識の有無は問わないので、ぜひ、幅広い層の学生に受講してもらいたい。